様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 １９ 日現在

機関番号：３２６８２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｋ００１４３

研究課題名（和文）近代演劇としての商業演劇の機能と展開に関する研究―軽演劇とその興行を中心に―

研究課題名（英文）A Study on the Function and Development of Commercial Drama as a Modern Drama : Mainly on a Light Comedy and the Entertainment Industry

研究代表者
中野　正昭（NAKANO, Masaaki）

明治大学・文学部・兼任講師

研究者番号：４０４０９７２７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題では、軽演劇を中心に近代演劇としての商業演劇の機能とその興行展開について、約30の機関で資料調査・収集、関係者8人への聞き書き等の基礎調査を行った。研究成果物としては雑誌論文8件、学会発表11件、図書5件がある。主な研究成果物に軽演劇の最高傑作とされる榎本健一『最後の伝令』を海外作品と比較検証した論文「エノケン喜劇『最後の伝令』とF・キャプラ映画『陽気な踊り子』―軽演劇にみるアメリカ映画のアダプテーション―」、大正期翻訳オペラを興行的観点から再検討した単著『ローシー・オペラと浅草オペラ―大正期翻訳オペラの興行・上演・演劇性―』がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義
研究成果の学術的意義としては、従来の舞台芸術を中心とした日本の近現代演劇史に対して舞台娯楽研究の視座を提示したこと、新しく一次資料の発見・発掘を行ったこと、国内の演劇以外の専門家との共同研究や海外の舞台娯楽に関心を持つ演劇研究者との意見交換を通して、研究テーマの多角的な展開と発展を促したことがある。社会的な意義としては、研究課題が持つ大衆性を考慮し、学術論文以外に一般書を刊行したこと、新聞雑誌テレビなどメディアに出演し最新の学術的知識を提供したこと、そしてこれらを通して大衆文化史に於ける舞台娯楽への関心を高め、その歴史的評価を定めたことがある。

研究成果の概要（英文）：In this research project, I conducted basic research on the function of commercial theater as modern theater, with a focus on light theater, and its entertainment development, by surveying and collecting materials at about 30 institutions and interviews wit related people. As research results, I published 8 journal articles, 11 conference presentations, and 5 books. Major research achievements include the article "Enoken's Comedy 'The Last Messenger' and F. Capra Film 'The Matinee Idol': Adaptation from American Films to Japanese light Theatre," the book " Rosi's Opera Company and Asakusa Opera : promotion, performance, and theatricalism of Translated Opera in Taisho era".

研究分野：演劇学

キーワード：日本近現代演劇　商業演劇　軽演劇　音楽劇

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

日本に於ける〈近代演劇〉の確立は、一般的には、ヨーロッパの小劇場運動に刺激された明治期の自由劇場や大正期の築地小劇場などの新劇の劇団創設とその演劇運動によって捉えられている。しかし、新劇は都市部の知識人層を観客とした小劇場での公演が基本であり、演劇界全体で考えた場合、観客の大部分である中間層や大衆層とっては、帝国劇場、有楽座、宝塚劇場などの〈商業劇場〉で上演される女優劇、中間演劇、少女歌劇、軽演劇などの〈商業演劇〉こそが、最初の〈近代演劇〉との出会いであり、これらを通じて観客は歌舞伎とは異なる〈近代演劇〉を受容した。

こうした受容過程は新劇の劇団が育たなかった地方で特に顕著だった。また〈商業演劇〉を扱う大手興行会社（東宝、松竹、吉本興業など）の場合、昭和戦前期の広義の〈軽演劇〉人気を背景に、近代的な〈興行〉システムを構築――全国的な系列劇場・映画館の設置、東京作品を各地に供給、舞台の映画化／映画の舞台化による演劇と映画を連携させた作品制作、ラジオ、雑誌、レコードなどとのメディア・ミックスや広告宣伝など――することで、〈近代演劇〉の商品化と全国普及を成功させた。

即ち、日本に於ける〈近代演劇〉の定着を考えた場合、〈商業演劇〉の果たした機能と展開は極めて重要であった。しかし、従来の日本演劇史研究では〈近代演劇〉の創作主体である新劇の作家や劇団、これらのイデオロギーと運動に多くの焦点が当てられ、一般的な観客にとって実質的な〈近代演劇〉の役割を担った〈商業演劇〉やその受容者である大衆的観客は見過ごされてきた。近年では、文化社会学を応用した映画、音楽、大衆文化研究の分野で〈商業性〉〈娯楽性〉に基づく研究が登場し、演劇研究でも神山彰監修「近代日本演劇の記憶と文化」シリーズ（森話社）が商業演劇への再評価をはじめとする従来の日本演劇史の書き直しを提起している。

本研究はこうした近年の隣接領域の研究成果と日本演劇研究の動向を踏まえて実施するものである。

２．研究の目的

日本の〈近代演劇〉を観客受容の点からみた場合、演劇人口の大部分を占める大衆的観客にとって実質的な〈近代演劇〉とは〈商業演劇〉であった。なかでも 1920-30 年代の欧米ミュージカル・レヴューや映画の影響を受けて東京で誕生した広義の〈軽演劇〉は、同時代の欧米の都市モダニズムを内容・形式に反映させた大衆的〈近代演劇〉であった。

昭和期、大資本興行会社は近代的な〈興行〉システムを整備し、ハード（全国的な系列劇場・映画館の設置）とソフト（舞台・映画）の両面から全国各地に均一な商品としての〈軽演劇〉を供給し、大衆モダニズムを欧米→東京→地方（全国）へと受容・拡大させた。

本研究は〈軽演劇〉とその〈興行〉を中心に、〈商業演劇〉が果たした〈近代演劇〉としての機能、〈商業演劇〉にみる娯楽の文化産業化の展開を明らかにすると共に、日本演劇史研究に舞台娯楽を対象とした大衆文化論的〈近代演劇〉の視座を確立することを目的とする。

３．研究の方法

これまで商業演劇は体系的な研究がなされてはおらず、専門機関での資料所蔵も充分とは言い難い現状にある。そこで本研究では、研究期間全体にわたって、東京・関西・その他の地域の機関及び古書店等を通じた商業演劇に関する資料調査・収集とその分析を行った。調査対象は商業演劇、とりわけ軽演劇の全国的な興行展開を手掛けた東宝・松竹・吉本興行所属劇団・劇場を第一とし、全体的な動向を確実に把握することを優先した。特にプログラム、台本等の一次資料については、どの機関でも所蔵や研究の蓄積が充分ではないため、集中的に収集と分析に取り組み、従来の定説の検証を行った。また研究成果を国内だけでなく、海外でも発表し、海外のエンターテイメント研究の知見を積極的に取り入れることで、日本における舞台娯楽研究の進展を促すことに力を入れた。

４．研究成果

コロナ禍により、研究計画にあった地方や海外での資料収集・研究発表の変更を余儀なくされたが、当初の目的の大部分を達成することができた。研究期間中に東京・関西・その他の 31 機関で資料調査を、関係者 8 人に聞き書き調査を行い、貴重な資料を収集することができた。また 2018 年度からは早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携拠点・公募研究「栗原重一旧蔵楽譜を中

心とした楽士・楽団研究」の研究代表となり、エノケン劇団の指揮者だった栗原重一の旧蔵資料の調査を元に、各専門分野の研究者による共同研究の形でエノケン研究、軽演劇研究を進めることできるようになった点は、研究上の大きな成果となった。さらに海外研究者との意見交換等を通して、九州地方のにわか研究、剣劇研究及びそれらの興行研究という新しい商業演劇・大衆演劇関連の研究課題を得ることができた点は、本研究課題を今後へ発展させる成果のひとつとなった。この他に、本研究課題に関連する内容で博士の学位取得及びその書籍刊行を行った。

研究成果として雑誌論文 8 件、学会発表 11 件、図書 5 件を出した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 中野正昭	４．巻 141
２．論文標題 Ｇ・Ｖ・ローシーとローヤル館の絵葉書	５．発行年 2020年
３．雑誌名 文芸研究	６．最初と最後の頁 81 - 90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 中野正昭	４．巻 1
２．論文標題 筑紫美主子と佐賀にわか――九州にわかにみる地方大衆演劇の興行展開	５．発行年 2020年
３．雑誌名 東アジア文化圏の芸態にみる「大衆」～観念・実体・空間～論文集	６．最初と最後の頁 239 - 257
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 中野正昭	４．巻 43
２．論文標題 エノケン喜劇『最後の伝令』（1931）とフランク・キャプラ映画『陽気な踊り子』（1928）――喜劇にみるアメリカ映画のアダプテーション――	５．発行年 2020年
３．雑誌名 演劇研究	６．最初と最後の頁 99 - 122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中野正昭	４．巻 1
２．論文標題 ムーラン・ルージュ新宿座と林摶秋	５．発行年 2019年
３．雑誌名 『新宿ムーラン・ルージュ――赤い風車の回る劇場』パンフレット	６．最初と最後の頁 2 - 3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中野正昭	4．巻 69
2．論文標題 大西由紀著『日本語オペラの誕生――鴎外・逍遥から浅草オペラまで』	5．発行年 2019年
3．雑誌名 演劇学論集	6．最初と最後の頁 123 - 127
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中野正昭	4．巻 3359号
2．論文標題 一演劇人としての清水邦夫論　「世界中の誰とも握手をしない」道を選んだ男の劇世界／井上理恵著『清水邦夫の華麗なる劇世界』	5．発行年 2020年
3．雑誌名 読書人	6．最初と最後の頁 6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中野正昭	4．巻 1
2．論文標題 侠客と女剣劇――籠寅興行部と大江美智子一座にみる大衆演劇の興行展開――	5．発行年 2022年
3．雑誌名 「移行する大衆演劇～人々の記憶の現像と制度の再建～」論文集（立教大学アジア地域研究所）	6．最初と最後の頁 357-374
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中野正昭	4．巻 1
2．論文標題 ピエル・ブリヤント他観劇写真貼込帖の考証	5．発行年 2022年
3．雑誌名 栗原重一とその時 代エノケン喜劇を支 えた音楽家　（「栗原重一旧蔵楽譜を中 心とした楽士・楽団研究 昭和初期の演劇 ・映画と音楽」成果報告集）	6．最初と最後の頁 85-93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計11件（うち招待講演　4件／うち国際学会　6件）

1．発表者名 中野正昭
2．発表標題 侠客と興行――籠寅興行部の創業と展開――
3．学会等名 東アジア大衆演劇研究会、国際論壇「娯楽市場と芸態」（主催：立教大学アジア地域研究所、共催：国立台北芸術大学）（国際学会）
4．発表年 2020年

1．発表者名 中野正昭
2．発表標題 エノケン写真の考証について
3．学会等名 文部科学省「共同利用・共同研究拠点事業」演劇映像学連携研究拠点公募研究「 栗原重一旧蔵楽譜を中心とした楽士・楽団研究」主催公開研究会「エノケンと同時代の楽士たち 栗原重一とその周辺」（招待講演）
4．発表年 2020年

1．発表者名 中野正昭
2．発表標題 從「佐賀俄」看「九州俄」的傳 統及職業化
3．学会等名 国際シンポジウム「2019 東亜大衆戯劇研究国際論壇 面向大衆：戯劇視野、場域的建構與生成」（国際学会）
4．発表年 2019年

1．発表者名 中野正昭
2．発表標題 筑紫美主子と佐賀にわか
3．学会等名 国際シンポジウム「東アジア文化圏の芸態にみる「大衆」～観念・実体・空間～」（国際学会）
4．発表年 2019年

１．発表者名 中野正昭
２．発表標題 エノケン喜劇の音楽とその時代
３．学会等名 早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点公募研究「栗原重一旧蔵楽譜を中心とした楽士・楽団研究」公開研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 中野正昭
２．発表標題 つかこうへい『リング・リング・リング　女子プロレス純情物語』について
３．学会等名 日本演劇学会分科会・日本近代演劇史研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 中野正昭
２．発表標題 従軽戯劇中看欧美娯楽之接収與変換――以榎健（榎本健一）的電影為中心――
３．学会等名 2018東亜大衆戯劇国際学術検研討会：流行的生成與変動（国立台北芸術大学）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 中野正昭
２．発表標題 エノケン喜劇『最後の伝令』とF・キャプラ映画『陽気な踊り子』――軽演劇にみるアメリカ映画のアダプテーション――
３．学会等名 公開研究会「エノケンの楽団と舞台・映画・レコード　栗原重一旧蔵楽譜から考える」（主催：演劇映像学連携研究拠点・公募研究「栗原重一旧蔵楽譜を中心とした楽士・楽団研究」）（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 中野正昭
２．発表標題 以劇団四季為例看日本娯楽市場與音楽劇
３．学会等名 国際演劇講座「日本近代娯楽市場――音楽，音楽性，音楽劇」（国立台北芸術大学）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 中野正昭
２．発表標題 侠客と女剣劇――籠寅興行部と大江美智子一座にみる大衆演劇の興行展開――
３．学会等名 国際シンポジウム「移轉的大衆戲劇：民衆記憶的顯影與體制的重建」（主催：台湾国立台北芸術大学、共催：立教大学アジア地域研究所）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 中野正昭
２．発表標題 筑紫美主子劇団にみる商業俄のドラマ性
３．学会等名 日本演劇学会
４．発表年 2021年

〔図書〕　計5件

１．著者名 森佳子、奥香織、新沼智之、萩原健、大崎さやの、村島彩加、藤原麻優子、小菅隼人、中野正昭、赤井朋子、辻佐保子、田中里奈	４．発行年 2020年
２．出版社 森話社	５．総ページ数 304
３．書名 演劇と音楽	

1．著者名 神山彰、後藤隆基、熊谷知子、村島彩加、大西秀紀、日比野啓、鈴木理映子、和田尚久、西条昇、中野正昭	4．発行年 2020年
2．出版社 森話社	5．総ページ数 368
3．書名 演劇とメディアの20世紀	

1．著者名 中野正昭	4．発行年 2021年
2．出版社 学位論文：博士（文学）	5．総ページ数 391
3．書名 大正期の翻訳オペラの研究――浅草オペラの興行、上演、演劇性を中心に――	

1．著者名 日本近代演劇史研究会編	4．発行年 2019年
2．出版社 社会評論社	5．総ページ数 436
3．書名 つかこうへいの世界　消された〈知〉	

1．著者名 中野正昭	4．発行年 2022年
2．出版社 森話社	5．総ページ数 576
3．書名 ローシー・オペラと浅草オペラ　大正期翻訳オペラの興行・上演・演劇性	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関